

## 第4回 まちづくり市民協議会（第1分科会）会議録

日時：令和元年11月22日（金）18時30分～

会場：市役所3階大会議室1号

出席者 委員 5人（欠席6人）  
事務局 4人

### 1 開会

#### ○ 事務局から開催形式等について説明

- ・今回は分科会形式で開催。本日は第1分科会。
- ・議事進行は上田会長

### 2 事務連絡

- ・議事の進め方について  
事務局から説明

### 3 協議事項

#### (1) 光市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定(中間案)について

事務局から資料に基づいて説明ののち質疑意見等

#### ●委員

ただ今、事務局から説明をいただいた。ご意見・ご質問などがあればいただきたい。

#### ●事務局

本日、欠席の委員から、事前に寄せられた意見を紹介する。

光市で昨年に発生した豪雨災害を受けて、市民の防災意識をより高めていく必要がある中、各地域で防災士の資格取得を促してはどうかという意見をいただいた。

この意見について、総合戦略の関連箇所としては、資料2（P34）の施策「都市基盤の整備とストックマネジメント」の事業例「災害に強い都市基盤整備」が挙げられる。

なお、防災士の取得については、光市は取得に対する補助を既に実施している。

#### ●委員

防災士の取得については、各地域コミュニティが力を入れて取組みをしている。

浅江地域では、毎年1名、防災士の資格取得を行っている。

総合戦略において、防災士の資格取得をソフト面の取組みとして記載が可能であれば、記載してもよいのではないかと。

●事務局

総合戦略については、国の基本指針である「まち・ひと・しごと創生基本方針」等に沿う形で作成しており、いわゆる防災については、国の基本方針でも取り上げられてこなかった経緯もあり、他の自治体についても、記述が厚くない部分となる。

安全・安心に関わることは、総合計画に記載があることから、防災については、中間案の「災害に強い都市基盤整備」の記述に内包されているとお読み取り願いたい。

●委員

光市に防災士は何名ほどいるのか。

●事務局

正確な人数は分からないが、防災士の資格取得に対する補助金の件数は、20件程度と思われる。

●委員

浅江地区は防災士が5名いる。

●委員

防災に関する研修はよく受ける機会があるが、防災士の資格を取得するまではなかなか発展しない。

光市は、豪雨災害はあったが、台風被害は何年も発生していないのではないか。

●事務局

本市においては、台風被害は、近年あまり発生していない。

●委員

光市で台風被害があまり発生していないことを、都市部にPRしていくこともいいのではないか。

●事務局

山口県全体の特徴として、台風被害の発生が少ないため、県もこの点をPRしている。県と一緒にPRしていければいいと思う。

●委員

(人の流れについて) 光市から下松市に突出して人が流出している。

このあたりの要因は何かあるのか。

●事務局

下松市に人が流出する理由は、なんとなくの理由が、それぞれにあらうかと思う。

総合戦略を策定するにあたって、市が転出者に実施したアンケート調査では、光市から転出した人の転出理由については、「買い物が便利」、「交通の便が良い」、「職場までの距離」などの回答を得た。やはり、このあたりが理由の一つになるかと考える。

転出された22名のうち、9名の方については、光市でも住まい(転居先)を探したとの回答があり、結果的に下松市に転出したとの回答があった。

●委員

(豪雨災害時には)下松市・光市間の鉄道がストップしたが、あれは大きなインパクトがあった。これから、どの様な対応をするのか。

●事務局

(豪雨災害時には)3か月、鉄道がストップした。この件は、光市だけではなく、下松市でも大きなインパクトがあった。下松市から光市に通われている方も多く、下松市に「国道188号を補完する道路が必要ではないか」という意見が多く寄せられたと聞いている。光市としても、188号を補完する道路については、今年に限らず、以前から国・県に要望している。また、商工会議所が県に意見・要望をだすなどの報道もあったところである。

時間はかかるかもしれないが、引き続き、市として要望を行っていききたい。

●委員

もうすぐ、市内の県立高等学校が一つになる。

今、小中一貫の取組みがされている中、高等学校までの連続性については今一つのように感じる。高校は県の管轄になると思うが、市内にある高等学校なので、何か連携できないのか。中学卒業後、市外の高等学校に進学する子どもが多いように思う。

●委員

高等学校は県と市の管轄の関係がネックとなってくるのかと思う。資料2(P27)の施策「学校・家庭・地域がつながる教育の推進」があるが、この施策の主要な事業例である「幼保小・小中連携の推進」について、「小中高」、「高等学校」を加えることができないか。

今後、新光高等学校ができた際に、新学校がコミュニティ・スクールとなる。ただ、中学校からすると、高等学校のコミュニティ・スクールの姿が見えてこない。

小学校・中学校・高等学校で、コミュニティ・スクールの繋がりをもたせないといけないと考える。大雑把に表すと、「小学校は地域を学ぶ」、「中学校は地域貢献ができる」、「高等学校は地域づくりに参画できる」、このようなステップがあろうかと思う。

この流れをつくりつつ、光市で生まれた人材が、どの様に光市に戻ってくるか、光市に貢献・活躍できるか、この循環をつくることができたらと思う。

●事務局

資料2(P21)の施策「住み続けたい「光」定住・定着支援」の事業例に「高等学校や大学等と連携した人材育成」を掲げている。この事業例は、元々は大学との連携としていたが、この度、高等学校との連携を加えたところ。

高等学校との連携については、市長も強い関心を示しているところ。

ここ最近では、光高等学校から市に出前講座の依頼を数回受けており、市と学校で交流をしている。この流れが今後、発展していくことを期待している。

●委員

資料1 (P16)に「性別による転入・転出の状況」があるが、男性で、転入が多い年齢層が、10歳代未満、30歳代、60歳代となっているが、この30歳代と60歳代の理由はどのようなものがあげられるか。

●事務局

この数字は、国から得たものだが、転入出の理由が記載されていないため、分析はできていない。30歳代であれば転勤など、60歳代であれば、定年退職・リタイアなどが理由として考えられるのではないか。

●委員

子どもたちの声を聴くと、コミュニティ・スクールなどの活動もあり、「自分の地域に誇りを持っている」、「いつか光市に戻ってくる」という気持ちをもっている子どもが多い印象を受ける。こういう子どもたちを育てていきたいと考える。

だからこそ、小中高とコミュニティ・スクールを繋げていくことが重要だと考える。

●事務局

コミュニティ・スクールを通して、地域に愛着を持つ子どもたちが増えてくることを強く期待している。先日、光井中学校で「市長と語ろう青少年の集い」があった際に、市長が生徒さんに対して、「中学校・高等学校を卒業後、市外にでていくこともあると思うが、いつか光市に戻ってきてほしい」というメッセージを生徒さんにおくった。

市としても、子どもたちが戻ってくることができるまちづくりを進めたいと思う。

●委員

自分も光市に生まれ、大学進学時に関東へ出て、就職の際には、たまたま縁あって地元で働ける現在の仕事に就いている。

人口の推移の分で、地区別の年齢分布などはHPで公開されているか。

●事務局

地区別の毎月の住民票の人数がHPで公開されている。

●委員

ふるさとを愛する心は、小さなころから育むことが重要だと考える。

小中一貫教育という言葉をよく聞くが、小中一貫教育とは何か。

●委員

従来小学校と中学校は、それぞれの学習指導要領に基づき、カリキュラムを組んでいる。小学校6年、中学校3年で構成されるカリキュラムが、小中一貫教育では、カリキュラムを小学校・中学校9年間を繋ぐこととなる。

●委員

連携の動きが広がり、高校生も地域との繋がりがさらに深まればよいと思う。

●委員

子どもたちがふるさとに誇りを持つのは、地域と関わり合いをもったからだ認識している。地域との関わりをもたすことが重要だと思う。

●委員

昔は、子どもと地域との関わりは少なかったように思う。

今の子どもたちは、地域の歴史など、地域から教えてもらう機会がよくある。

しかしながら、最近は、子どもたちも忙しい。

●委員

先日、光市で開催された「やまぐち地域連携教育推進フォーラム」で、田布施農工高等学校の生徒さんが取組みを発表したが、子どもが発表することはとてもインパクトをもたらすことを再認識した。子どもたちに受講する機会だけではなく、ふるさとについて発信する場をつくっていくことが大切だと感じた。

●事務局

前回、総合計画を策定する際には、対話集会において、中学生に将来の光市の姿について発表していただいた。中学生のプレゼンは、会場内の人たちを感化させ、まちづくりに対して前向きな気持ちをもたらした。

●委員

高校生が発表するとさらにインパクトがあると思う。

●事務局

高校生については、受験などもあり、これまでは関わりが限られていたが、高校生と何か一緒にできる取組みがあれば、ありがたい。

●委員

時間もあるので、本日の議論は、ここまでとしてよろしいか。

それでは、事務局より次第の4「その他」の項をお願いします。

#### 4 その他

○ 事務局から今後の予定等について連絡

- ・次回開催は3月を予定している。

終了 19時30分